

由布

創刊号
1973

大分大学体育会

賛助金まことに有難うございました。紙上にて、失礼ながら御礼申し上げます。

(敬称略・アイウエオ順)

大分製紙

高橋新一
丸三

友永儀三郎

モリヤスポーツ

薬秀倉庫(高橋常夫)

大分冷蔵
小野利雄
佐藤正三
佐藤甲子夫

モリヤスボーツ

薬秀倉庫(高橋常夫)

モリヤスボーツ
モリヤスボーツ
モリヤスボーツ
モリヤスボーツ



卷

頭

言

第四代体育会会长　吉庄哲郎

昭和四十四年に大分大学が旦野原に統合移転して既に四年の月日が流れた。大分高商時代、そして上野の経済学部、駄ノ原の教育学部時代からの歴史を持つスポーツ活動も統合されて新たな出発をなし、一段とその充実と拡張がなされた。四十六年には本学当番の九州インカレの開催を通して分大体育会の存在が確固たるものとなつた。そして長い胎動期間を経て、昨年五月、經濟、教育両学部の学生大会において自治会からの独立が達成され、規約を制定し、課外活動中の傷害を相互扶助によって保障する傷害保険共済会を備えるに至つた。新たに工学部の同胞を迎えた現在、体育会は名実ともに大きく成長したのである。ここまで分大体育会が充実発展してきた経過のうちには数多くの先輩、関係諸兄の並々ならぬ御努力があつたことは言うまでもない。

第一段階の過渡期を終え第二段階へと進んで来た現在の体育会の使命は、さらにサークルの充実をはかるとともに大分大学に集う人間全部がより活発にスポーツを行える環境を精神面、物質面で造っていくことにある。全国の大学の中でも学生数からいえば恵まれた施設を持ち、全学的な体育会行事と日常の活動を行うことによつて前述の目的はある程度達成されてはいるが、まだ今後の課題は多い。たとえば体育館の問題、サークル強化の問題、部員数の問題、全学的な体育会としてのスポーツ振興とそれに付随する課題……等である。体育館ではバスケットのコート二面ほどの中に七サークルが練習しており過密状態である。四月に附属体育館ができることにな

つたが、小規模のため充分緩和できるとは言い難い。これらのさまざまな課題に対しても、体育会本部が中心となり会員全員が一致協力して解決していくかねばならない。

我々が役員を受才迷ひで半年が過ぎてば、既に甚楚の団まつて不景氣

我々が役員を受け継いで半年が過ぎたが、既に基礎の固まつた体育会の発展の一翼を担うものとしてこの機関誌の発刊を企画した。統合移転以前に経済学部体育会では「スポーツマン」という機関誌が発刊されていたが、最近数年間は発刊されていなかつた。この機関誌「由布」が体育会の指向性を示し将来の飛躍への契機となれば幸いである。そしてまた後輩諸君の手によつて発刊が続けられることを祈る。



創刊号によせて

学長後藤正夫

昨年の春、独立した大分大学体育会が機関誌を創刊されることを、本当に嬉しく思います。現在、私は全国大学保健体育協議会の副会長で、九州地区大学保健体育協議会の会長をしているので、大分大学に体育会ができて活動を始めたことについて私のよろこびは大きく、その発展を期待しています。

学の施設を見るにつれて、強く意識するようになりました。独立で以上に活用して、よい成果をあげられるよう念願いたします。

目下、学生諸君からも体育教官からも強く望まれていた合宿を行うことのできる施設の建設の計画が進められています。これが早く完成して、体育会の活動のために役立つことを望みます。以上簡単ながら、所感の一端を述べて、創刊に対するお祝のことばにかえる次第です。



学生生活と体育活動

学生部長 中村広治

統合移転と工学部新設を期に、課外活動の諸クラブが一本化され、それらの統轄機関としての体育会・文化会も独自の活動を始めるにいたり、本学における課外活動の一層の発展が期待され諸君とともにこれを喜んでおります。とくに念願の合宿施設も現体育館に併設の小体育館（仮称）の夜間利用という形で曲りなりにも設置しうる運びとなり（来年度早々に利用可能の予定）、これまで諸君に不便をかけた点をお詫びするとともに、年来の重荷のひとつをおろしうる安堵の念を禁じえません。学長はじめ関係各位の御努力に、諸君とともに感謝したいと存じます。

いうまでもなく大学は、研究・教育を軸に運営されますが、課外活動は学生生活にとって、研究・学習とならぶ重要な一面をなしておおり、広義の大学教育の一環をなしています。おなじ世代に属する者が志を同じくして相寄り相扶け、心身を鍛え友情を結ぶこよなき機会は、クラブ活動においてもっとも恵まれてゐるといえましょう。その意味において、クラブ活動は学生生活の華ともいえましょう。

卒直にいって私は、本学の課外活動が数多くの諸君の参加のもとに活発におこなわれてゐる現状に、喜ぶとともに一抹の悲哀を覚えざるをえません。というのは、課外活動がともすれば課内活動を圧倒するほどの現状だからであります。これは、課外活動の責任ではなく、課内活動（この奇妙で耳ざわりな造語を許して下さい）のあり方に痛烈な批判を投げつけていることになります。

一般的にいって私は、本学の課外活動とくに体育活動はきわめて望ましい姿であると考えています。しかも積極的な意味において。すなわち、一部のスター・ダムの諸君のために課外活動があるかのごとき転倒現象がないこと、参加・不参加・脱退が自由であること、以上二点を高く評価するからであります。第一点はあるいは幸か不幸かスターがいない（？）結果そうなつてゐるのかもしれません。しかし、大学の課外活動としての体育活動は、もとより各自の技量やチームの力量の向上を目的のひとつとしていますが、それ以上に、技量、力量向上をめざす鍛錬の過程における相互の心身・人格の完成をこそ目的としています。

そもそもスポーツがポリスの自由民としての完成をめざす一環であったことや、近代スポーツがいわゆるジェントルマンシップ養成の一環にほかならないことを想起するだけで十分でありましよう。勝つことでなく参加することが重要だというオリンピックについてのクーベルタンの発言も、この思想の延長上に位置しています。私はこのような意味から、スターの有無にかかわらず、現在の部活動のあり方は、積極的な意味をもつてゐると考えます。

第二点については、本来ならば「今までないこと」・「あたりまえのこと」でありますが一部の私大にとどまらず、実質的にクラブがオープンに運営されているとはかぎりません。ニュースで伝えられるものが氷山の一角にすぎないことは、公然の秘密ともいえます。その意味において本学の諸クラブの良き伝統が諸君の良識によつて永く伝えられることを切望するものであります。

ます。また体育会が自主的に統轄の機能を發揮されるよう要望いたします。施設・備品等については、今後ともできるかぎり充実させていくよう努力しますので、諸君が悔いのない発刺たる活動を展開されるよう期待する次第であります。

一七三・一・一五記



大学スポーツの意義と

体育会に期待するもの

体育会顧問 平野 淎

大分大学体育会創立以来の念願であった会誌の創刊号が発行されることを誠に喜ばしい限りであり、短期間にここまで発展した体育会に対して心から賞讃と祝福を贈りたい。

新制大学としての大分大学が設置されたのは昭和二四年であり、経済、教育の二学部は上野丘と駄之原に分れており、体育系サークルは学部別の自治会所属の体育部としてそれぞれの学部の狹少な施設の中で体育活動がなされていた。しかし、施設の狭少と貧弱や多様化される体育系サークル活動からくる部員増と素質のすぐれた部員確保の必要から体育系部活動は必然的に大学一本化の方向に進められてきた。

昭和四二年、大分大学統合移転計画が実施されるに際し、体育施設の拡充整備を強力に推進させると共に、体育系サークルの統合と充実の方向に促進するための自主的な学生体育ゼミナールや体育行事の実施などの積極的な活動が開始された。幸にも新構想の体育施設は迂路曲折があつたが、全国の大学体育施設のモデルとしての広大な整備された施設が建設された。体育施設は昭和四四年には略完成し、従来の学部間のセクトを除去する新しい大学への方向への前進が他に卒先して体育会が発足したのである。これは、従来の単なる体育系サークルの連合体組織としてではなく、一般学生を含める全学生の自治活動としての課外体育活動を統轄し、積極的に課外体育活動を振興する正式機関として創立されたものである。その目的とするものは学生スポーツを通じて

して学園（全学生と教職員）の親睦と友情を高揚し、スポーツ活動の発展に寄与することにある。大学スポーツの意義についての所見を述べ、今後の体育会の発展への示唆ともなれば幸いである。

現代社会におけるスポーツの役割は、人間解放から、さらに入間形成への推進力であり、余暇の増加する人間生活に新しい創造の空間と方法を与えることである。人間形成としてのスポーツの機能第一は、医学的立場からの「体力づくり」である。経済社会の高度な発達に伴う生活様式の変化は、著しい体力の低下をきたしている。体力は積極的なものとしてあり、作業能力としての行動体力とストレスにたいする抵抗力としての防衛体力とに分れるが、行動力と防衛力にすぐれた体力は人間の生命力を旺盛にする根源である。

スポーツの人間形成的機能の第二は「人づくり」があげられる。これは、歴史的、社会的、あるいは思想的人間としての成長に達しなければならない課題をもっている。今日の大学教育でもスポーツが重要視される大きな理由の一つとしては、スポーツ精神の主体化にある。それは現代社会の規範が、ヒューマニズムに支えられた人間尊重の精神を基盤にしたスポーツマンシップの意味する幾つかの資質が求められているからである。

スポーツの人間形成的機能の第三として「余暇生活技術」がある。スポーツが持つ娛樂性は自分がスポーツの生活化であり、大衆化であり、社会化である。スポーツの余暇生活技術の向上は豊かなレクリエーション生活として価値づけるものである。現代社会の人間疎外の状態から人間を回復する主体的、創造的、自己表現こそスポーツである。そのようなものとしてスポーツが意図的に発達してきたのである。

高度に発達した文明社会の生活は、機械化による作業の単純化となり、社会生活の中にも、都

市化された核家族の家庭生活の中にも、自由性、創造性は殆んどなくなりつつある。そこには、人間疎外の傾向と自由拘束を持つ生活環境がある。どうしても、個人が自由に行動できるようなくらいを得し、実践することが肝要であり、そこに大学スポーツの新しい役割が発見されるのである。

大学におけるスポーツの人間形成的機能は体力づくりや性格陶冶や余暇生活技術を主体とするが、創造的、自己表現的活動の面をも強調すべきである。また、大学のスポーツはすべての人の参加が容易であり、楽しめる性格のスポーツであり、正課体育と課外体育との有機的関連性をもつものであり、これらのスポーツを取巻く環境を改変する必要に迫られている。大学スポーツの発展は、有形無形の改革と実践を通して、広い生活現象、社会現象としてのスポーツ活動の展開を念願するものである。この意味において、今後の大分大学体育会の発展に大きな希望と期待を寄せるものである。

(完)